

山門会（春の彼岸会法要）のご案内


拝啓 初春の候 貴家益々ご清祥の段お慶び申し上げます。
 当院、例年通り山門会（春の彼岸会法要）を厳修いたしますので、
 万障お繰り合わせの上 ご参詣下さいますようご案内申し上げます。

合掌

平成二十一年 山門会（春の彼岸会法要）

日時 三月二十三日（月）

午後一時三十分より

黄檗宗 豊亀山 九島院 

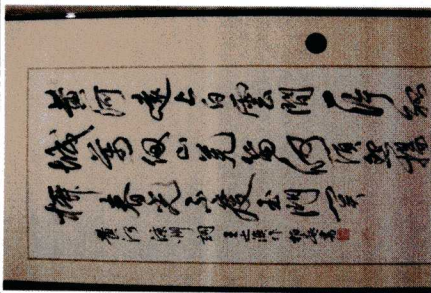
吟詠会『四名山を吟ず』

本年は、
法要終了後に、

『四名山を吟ず』と題する構成吟を、関西吟詩文化協会総師範の原江龍先生（住職の師匠）と中谷菘苑先生をお招きして吟じて頂きます。吟題は、本堂襖絵にちなんで書家の高園柏邨先生に墨書して頂いた漢詩の六題です。

※構成吟とは、特定の主題のもとに複数の吟目が組み合わされ、ナレーションやBGM、舞台照明といった演出にも

工夫が凝らされる総合的な舞台芸術です。今回は、設備上の都合によりDVD映写で雰囲気味わって頂きます。



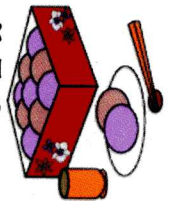
『本堂襖絵』

お萩と牡丹餅？

お彼岸にはお萩
やほた餅を供える

習慣があります。小豆の赤色には災難から身を守る効果があると信じられていて、邪気を払うという信仰が、先祖の供養と結びついたと言われています。

この二つの食べ物と呼び名が違うために別の物だと思われがちですが、お萩とほた餅は実は同じ食べ物です。ほた餅は「牡丹餅」とも書かれ、牡丹の季節「春の呼び名」です。お萩はその名のとおり萩の時期「秋の呼び名」なのです。春と秋、季節にちなんで名前を呼び分けるのは豊かな四季を持つ日本文化ならではの文化ならではの文化ではないのでしょうか？



◎彼岸会法要有志袋を同封いたしましたので、

ひが九回向法名用紙にご先祖・先亡諸精霊名をご記入の上、回向料を入れて、お送り下さい。

九島院第二十五世住職 奥田啓知（智證）
副住職 奥田穂積（明勝）

